

< 目次 >

- 1 【学社連携】地域をあげての復興教育を！〔後編〕
- 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
- 3 【編集後記】あつしのひとりごと

★教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

★「Hand In Hand」弾き語りコード譜をダウンロードすることができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/handinhandkoudo.pdf>

1 【学社連携】地域をあげての復興教育を！〔後編〕

いきいき生きる いきいき生きる
ひとりで立って まっすぐ生きる
困ったときは 目をあげて
星を目あてに まっすぐ生きる
息あるうちは いきいき生きる

これは、井上ひさしさんが作詞をした釜石市立釜石小学校の校歌です。東日本大震災津波により避難所となった釜石小学校では、毎朝、みんなでこの校歌を歌っていたそうです。この校歌を励みに、「生きる」ことを心に誓っていたのだと思います。

釜石小学校の学校要覧には、「震災を乗り越え、釜石を愛し、たくましく生きる子どもに！」したいと“ふるさと釜石の学習を推進します！”、“震災復興2年目 地域・保護者とともに歩みます！”、“命を守る活動をします！”と「いわての復興教育」で目指すところをハッキリと位置付けています。そして、その推進にあたっては“地域とともに～地域の教育力の活用～”ということをも明記し、大切にしています。

★釜石市立釜石小学校「平成24年度学校要覧」

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24kamaishiyouran.pdf>

学校・家庭・地域が一体となって連携・協働しながら「生きる力」や「ふるさと創生」を目指す取り組みは、大槌町でも平成25年度よりスタートします。小・中一貫教育の特設科目「ふるさと科」の取組です。これは、「地域への愛着」「生き方・進路指導」「防災教育」を3つの柱に、大槌町の復興発展を担う人材の育成を図っていくものです。

★大槌町教育委員会「ふるさと科通信」

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24oozuchifulusato.pdf>

岩手県教育委員会では、平成25年2月に「いわての復興教育」プログラムの改訂版を作成しました。新年度には製本された形で各学校に届くことになって

います。

「いわての復興教育」は、子どもたちが震災津波の経験を後世に語り継ぎ、自らのあり方を考え、未来志向の社会をつくることができるように、県内全ての学校で取り組むことに大きな意義があります。推進にあたっては、「いきる（生命や心について）」「かかわる（人や地域について）」「そなえる（防災や安全について）」の3つの教育的価値に基づいて取り組むこととしています。

特に「かかわる」は、震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画を進めるものであり、その具体の7項目は地域や家庭との連携が強く求められるところです。被災した岩手県は、学校教育と社会教育に分けることなく、両者を統合した地域をあげての復興教育に取り組むという意識が大切なのではないかと思います。

「いわて型コミュニティスクール」と「教育振興運動」が両輪となって全県共通課題（家庭教育の充実・読書活動の推進）に取り組んできたことを土台に、学校と教育振興運動が両輪となって「いわての復興教育」取り組んでいきましょう。

★「いわての復興教育」プログラム（改訂版）

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24iwatefukou.pdf>

2【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

（教ちゃん）ねえ、ねえ、振ちゃん。小屋瀬小学校の取組のこと、聞いた？

（振ちゃん）小屋瀬小学校って、「Hand In Hand」の訪問コンサートで清心ちゃんが2回訪問した葛巻町にあるんだよね。

（教ちゃん）そう。あの時は参加者の皆さんも一緒に歌ってくれたのよね。

（振ちゃん）それで、小屋瀬小学校がどうしたの。

（教ちゃん）うん。その小屋瀬小学校の子どもたちが、野田村の仮設住宅を訪問して、交流をしてきたのだから。

（振ちゃん）うん、うん。それで。

（教ちゃん）交流会の最後に歌を歌ったのだけど、「Hand In Hand」を歌ったのだから。仮設住宅を訪問するにあたって、この歌の歌詞を伝えたい・・・と選んでくれたのよ。

（振ちゃん）わあ、うれしいな。

（教ちゃん）この交流会も「いわての復興教育」よね。1度きりの訪問ではなく、再度訪問したり、手紙での交流を続けたりしているの。「ひとりじゃないよ。手と手を取りあって、一緒にいこう」という気持ちが伝わってくる取組だわ。

（振ちゃん）『いわての復興教育プログラム』に“支援する側、される側という関係ではなく、未来をつくる仲間になりましょう”という学校間交流での生徒の言葉が載っていたんだけど、本当にその通りだと思うんだ。

（教ちゃん）そうね。そういう交流の輪が広がっていくといいわね。

（振ちゃん）小屋瀬小学校みたいに、様々な交流の機会で「Hand In Hand」をどんどん歌ってほしいな。

（教ちゃん）滝沢村立一本木小学校、一関市立一関小学校、岩泉町立小川中学校、岩手県立久慈高等学校が「Hand In Hand」を歌っている様子

や教育振興運動集約県大会オープニングアトラクションの様子も
「まなびネットいわて」のホームページから見ることができます
ので。是非ご覧ください！

★葛巻町生涯学習推進大会「小屋瀬小学校の復興教育」発表

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24koyasefukou.pdf>

★各小中学校、高等学校によるイメージソング「Hand In Hand」の歌唱動画

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

3 【編集後記】あつしのひとりごと

森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、高村光太郎、宮澤賢治……。没後
50年を経た明治から昭和初期の文豪です。没後50年が経ちますと著作権保
護期間が終了し、著書の出版が自由になります。今年、吉川英治（1962年没）
がその仲間入りをしました。

地上デジタル放送の開始に伴い“地デジ難民”となっていた我が家も、年末に
地デジチューナーを購入し「紅白歌合戦」を見ることができました。文明開化
の波は高3の息子に初の携帯電話の所持を許し、私の携帯電話をスマートフォ
ンに換えました。そして今、私は著作権が切れた本を無料公開しているアプリ
“青空文庫”で「宮本武蔵（著；吉川英治）」を楽しんでいます。

電子書籍には賛否両論があるとは思いますが、内ポケットから取り出し、片手
で持って画面（ページ）をめくることができ、老眼に優しくフォント（文字）
の大きさを自由に変えることができる使い勝手の良さと名作をすべて無料で読
むことができる魅力にはまりそうです。

2015年には江戸川乱歩と谷崎潤一郎の、2017年に山本周五郎の著作権
が切れます。今から無料の電子書籍化が楽しみです。さて、現代の作家の中で
没後50年後も読まれる人は誰だと思いますか？

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。 ⇒ atsushi@pref.iwate.jp

⇒ 第89号は、3月26日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～87号）はこちら。

⇒ http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始ま
ります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～